

## 大切にしていますか

プロテニスプレーヤーの大坂なおみ選手が、準々決勝まで進んだ公式戦で棄権することを明らかにしました。理由は、二十三日にアメリカで発生した、黒人男性が警察官に背後から銃撃された事件に抗議するためです。

彼女の発言に私は注目しました。

「私はアスリートである前に黒人女性。私のテニスを見るより、もっと注意を向ける多くの重要なことがある。」

この言葉を知った私は、大坂選手はテニスだけの人間ではないと思いました。プロの選手はそのスポーツの結果で生計を立てているので、そのスポーツのために全てを犠牲にしていると思いがちですが、それは違うと言えます。一流であればあるほど、自分の置かれた立場を客観的に見つめることができ、今何をすべきなのかを冷静に考えることができるのです。ひとことで「プロ」と言いますが、「プロ」の条件には一流の間であることが必要なのです。

私は彼女の言葉を知って、一人の高校野球界の名将のことをすぐに連想しました。その人は蔦文也（つた ふみや）氏。徳島県の山間部の公立高校池田高校野球部を春夏通算十四回甲子園に連れて行き、優勝三回、準優勝二回という華々しい成績を収めた監督です。特に、一九七四年の春には部員十一名で準優勝を成し遂げ、「さわやかイレブン」と称されました。

蔦氏が中津川で講演をするというので、私は足を運びました。会場は超満員でした。そのときの彼の言葉が、今でもしっかりと記憶に残っています。

「池田高校野球部員である前に、池田高校の生徒でなくてはならない。どれだけ野球が優秀でも、池田高校の生徒としての勉強や生活がおろそかになっている選手は、わしは絶対使わん。」

大坂選手の言葉と共通しているのは、スポーツに取り組むことの前にやるべきことがあるということです。それをおろそかにしておいて、そのスポーツだけに打ち込んだら本末転倒（ほんまつてんとう）です。

逆に言うと、自分にとって大切なことは何かを確実に理解し、決してそれからぶれない強い心をもっているから、そのスポーツにおいても一流になれるのだと私は思います。

中学生だから勉強が大切なのはだれもが思っていることですよね。でも、人間として大切にすべきこともあなたにはあるはず。それを大切にしていますか。

